

1. 単元名 みんなにやさしい防災って何だろう

2. 単元の目標

- ・東日本大震災など過去の災害から教訓を学ぶとともに、生駒市の地理的条件、人口構成など生駒市特有の災害に関する課題を理解することができる。(知識・技能)
- ・インタビュー活動や夏休みの個人探究を通し、わかったことをまとめ、中学生版生駒市総合防災マップ作り、市役所でのプレゼン活動で適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・他の生徒と協力しながら主体的・協働的に活動に取り組むとともに、市役所でのプレゼン活動、中学生版生駒市総合防災マップ掲示活動を通し、積極的に社会に参画しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1)教材観

本学が位置する奈良県生駒市は、夏季の集中豪雨に伴う洪水や土砂災害が起こった場合、また活断層である生駒断層帯が震源となった場合に大きな被害が想定されている。しかし、地域の防災力や市民の防災意識に課題がある地域だ。(令和6年3月策定 第6次生駒市総合計画第2期基本計画 施策8 防災・減災・消防 現状と課題 67pより)

また、人口に関する特徴も二つある。一つ目は、大阪大都市圏のベッドタウンであるため、昼間は人口の約36%が市街へ出ているということだ。二つ目は、平成31年時点で年齢別人口構成における高齢人口率は約25パーセントであるということだ。(令和6年2月28日改定 生駒市地域防災計画 9-10pより)

そのため、昼間の生駒市には、働いている世代が少なく、子どもと高齢者が多くおり、災害が起きた際に積極的に行動しなければならないのは中高生であると考えられる。しかし、生駒市に県立高校は一つしかないため、中学生が中心となりその役割を担うだろう。

ただし、小学校を卒業したばかりの中学校1年生には、災害時に自分たちが「助けられる」側ではなく「助ける」側になるという意識はないだろう。しかし、2011年の東日本大震災時は、多くの中高生が、炊き出しの手伝いや生徒会有志による学校新聞発行等自分にできることに取り組み、地域で活躍した。これらの事例から、中学生が災害時に地域のために積極的に行動することが求められることがうかがえる。

(2)生徒観

本学の生徒は、素直で普段の学習も真面目に取り組む生徒が多い。しかし、三つの小学校から生徒が集まっているため、同じ小学校出身者でグループを作ることが多く、人間関係の固定化がややみられる。そのため、様々なメンバーでグループを構成し、他者と課題を解決する力を身に付けることを目指したい。

(3)指導観

「市民の災害への危機意識の低さ」と「中学生が地域のために積極的に行動する重要性」の二点に注目し、本単元の学習を構成した。

具体的には、中学生自身が東日本大震災をはじめとする激甚化している災害事例とその教訓から、自分たちの災害への危機意識の低さと未災地である今だからこそできることに気付く活動を行う。次に、危機意識を持っている自分たちが、地域のためにできることを考え、生駒市総合防災マップを中学生なりにアレンジをする活動を行う。

大きく分けてこの二つの活動から、災害への危機意識を高めること、災害時に求められる他者と協力しながら課題に取り組む力を育むことを期待する。加えて、本学習で育むことができる力は、中学校第2学年の総合的な学習の時間で取り組む職場体験学習にも活きると考える。

(4) ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

・公平性

自分たちの災害への危機意識を高めるだけでなく、生駒市民全体の災害への危機意識を高める必要性に気づく。

・連携性

クラスメイトと協力し、インタビュー調査、中学生版生駒市総合防災マップ作成、市役所でのプレゼン活動に取り組む。

本学習で育てたい ESD の資質・能力

・システム・シンキング

個人探究やインタビュー調査から、災害や市民の意識について多面的・総合的に捉え、中学生版総合防災マップ作成や市役所でのプレゼン活動に活かす。

・コミュニケーションを行う力

クラスメイト、インタビューする人、市役所職員等多様な人と適切な態度や言葉遣いでコミュニケーションを行う。

達成が期待される SDGs

・目標 11 住み続けられるまちづくり

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①東日本大震災の事例から、災害被害リスクと災害時に働く心理バイアス、教訓について理解している。 ②生駒市特有の災害に関する課題を理解している。	①インタビューやプレゼンの方法について理解し、実践している。 ②インタビュー活動や夏休みの個人探究から分かったことを考察・分析している。	①他の生徒と協力し、主体的・協働的に活動に取り組んでいる。 ②プレゼン活動や中学生版生駒市総合防災マップ掲示活動を通し、積極的に社会に参画しようとしている。

5. 単元の指導計画(全 37 時間)

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(△) 備考(・)
一 次	(事前に、生徒へ小学校までの減災学習、災害への意識等についてアンケートを取る) ①近年激甚化している災害の写真や映像を	・災害に対する恐怖を極	

7 時 間	見る。災害被害リスクを表す「Hazard(外力、誘因)×Vulnerability(脆弱性、素因)×Exposure(暴露)/Capacity(対処能力)」を学ぶ。 ②前時の復習をした後、具体的な事例として東日本大震災の宮城県気仙沼市杉之下地区の被災についてオンラインで語り部の講話を受ける。 ③前時の語り部の被災経験を復習した後、被災前の杉之下地区の取組に触れる。また、東日本大震災前の津波浸水想と東日本大震災時の浸水域を示し、想定を超える被害が出たことに気付く。 ④⑤前時の復習の後、グループで被災前の杉之下地区と現在の生駒市を比較し、違いと共通点を探す。グループごとの意見を聞いた後、クラス全体でまとめをする。(まとめ：違いは「住民の防災への意識の高さ」、共通点は「ここなら大丈夫という意識を持っていたこと」) 未災地である今だからこそできることを考え、「みんなでできること」、「個人でできること」に分類する。 ⑥⑦生駒市の災害に関する現状や意識を調べ、理解する。	端に煽らないように、映像や写真を見せる前に概要を伝え、生徒が、見る準備をできるようにする。 ・オンラインで語り部から講話をしてもらうため、機器の接続の事前準備を十分に行う。 ・杉之下地区は行政と地域住民が共に津波防災に力を入れていた地域だったことを強調する。 ・グループワークの際、②～④で使用したワークシートを参照するように指示を出す。 ・事前アンケートの結果を提示する ・机間指導を行い、悩んでいるグループがいたら助言する。 ・まとめの際、災害被害リスクを表す「Hazard(外力)×Vulnerability(脆弱性)×Exposure(暴露)/Capacity(対処能力)」を復習し、特に対処能力と関連することに触れる。 ・図書室で実施する。 ・パスファインダーを配布する。困りごとが生じ	△(ア)①：ワークシートの記載から △(ア)①ワークシートの記載から △(ア)②：ワークシートの記載から
-------------	---	--	---

		た際、学校司書に助言を もらうよう伝える。	
二 次 6 時 間	⑧⑨生駒市民の防災意識を調査するた めに、誰に何をインタビューするのか考える。 ⑩⑪グループでインタビューを実施する。 ⑫⑬インタビューからわかったことをグル ープで分析し、レポートにまとめる。 (夏休みの宿題で「個人でできること」につ いて取り組み、レポートにまとめる)	・必要に応じてインタビ ューする人を提案する。 ・国語で学習したことを 積極的に活用し、インタ ビュー活動を行うよう 伝える。 (・⑧で配布したパスフ ァインダーや地域の図 書館が活用できること を伝える)	△(イ)①、△(ウ)①： インタビュー活動の様 子、ワークシートの記 載から △(ア)②、(イ)②：レ ポートから
第 三 次 1 0 時 間	⑭中学生版生駒市総合防災マップを作るた めに、どんな総合防災マップを目指すのか 考える。 ⑮⑯⑰グループに分かれて、中学生版生駒 市総合防災マップ作成に取り組む。 ⑱⑲総合防災マップの学年での中間報告会 を実施し、他のグループから助言等をもら う。 ⑳㉑㉒中学生版生駒市総合防災マップを完 成させる。	・これまでのインタビ ュー活動や個人探究を活 用するよう伝える。 ・机間指導を行い、悩ん でいるグループがいた ら助言する。 ・冒頭、道徳で学んだ意 見の伝え方について確 認する。 ・机間指導を行い、悩ん でいるグループがいた ら助言する。	△(ウ)①グループワー クの様子から △(ウ)①中間報告会で 積極的に発表し、意見 を出しているか、ワー クシートへの記載 △(ウ)①グループワー クの様子から
四 次 16 時 間	(冬休み中に、完成した中学生版総合防災マ ップを、インタビューに協力してもらった 方々に評価してもらう) ㉔評価してもらったことを分析し、まとめ る。 ㉕㉖㉗中学生版総合防災マップのプレゼン 資料作成と練習をする。 ㉘㉙生駒市役所職員に、中学生版生駒市総	(・インタビュー協力者 への評価依頼は生徒が 行う。) ・美術や国語で学んだこ とを、積極的に活用す るよう伝える。 ・公共交通機関を使い、	△(ウ)①グループワー クの様子から △(イ)①、△(ウ)①②： プレゼン活動の様子、

合防災マップをプレゼンし、コメントをもらう。 ⑳㉑㉒前時のプレゼン活動を振り返り、防災マップやプレゼンの修正を行う。 ㉓㉔市役所職員に改良したプレゼンをする。 ㉕これまでの学習をグループで振り返り、個人でワークシートにまとめる。 中学生版総合防災マップを地域に広めるためにできることを考える。 ㉖㉗防災マップ掲示を依頼したい場所を決め、依頼電話をかける。 ㉘㉙現地へ赴き、掲示もしくは設置作業を行う。	市役所に向かう。その際、他の利用者の妨げにならないように留意する。 ・振り返りが進んでない場合、生徒が振り返りをしやすくなるように、これまでのワークシートを綴ったファイルを見るように声かけをする。 ・依頼場所の案が出ない場合、一部提案する。	ワークシートの記載から △(イ)①、△(ウ)①②：プレゼン活動の様子、ワークシートの記載から △(ウ)①②：グループワークの様子やワークシートの記載から △(ウ)①②：設置活動の様子から
--	---	---